

『ベルギー巡礼記』

2026年9月のシルバーウィークに難病を患う夫と二人で「巡礼の旅に出かけ人生を楽しむ」旅が始まりました。

空港から重い大きなスーツケース2つをかかえ、何故か動かないエスカレーターを歩き渡り、電車に乗りこみ秋の澄んだ空気に包まれたブリュッセルの地にやっと辿り着けました。

松村さんセレクトのブリュッセルの中心部にある4つ星ホテルは駅から2分、グランプラスへも2分と最高の立地で、観光や移動の拠点としてこれ以上ない抜群なホテルでした。温かいホスピタリティなホテル従業員さん達、美味しい朝食ビュッフェのおかげでとても快適に過ごせました。最終日の1泊はランクアップされ、なんと最高のラグジュアリールームに変更してくれました。

訪れたのは4都市になります。

ブリュッセル

サン・ミッシェル・エ・ギュデュル大聖堂

ちょうどフランス語によるミサが始まり、フランス語が分からなく、初めはドキドキしましたが、聖体拝領の時body of christと神父様からホスチアを頂きました。世界共通の祈りの形を目にし、言葉の壁を越えた大きな「信仰の繋がり」と夫と二人、無事に旅を始められたことへの感謝とこれからの巡礼への祈りを静かに重ね合わせました。また教会内で購入したメダイを神父様に祝福してもらいました。

グランプラス

「世界で最も美しい広場」と称される世界遺産で、ゴシック様式の美しい荘厳な建物です。夜のライトアップされた姿は特に幻想的でした。

ギャリ・サンチュベール

美しいアーケード街でお買い物やカフェを楽しめました。歩くだけでも楽しめます。

アントワープ

聖母大聖堂(ノートルダム大聖堂)では子供のころに見た『フランダースの犬』の舞台です。ネロとパトラッシュが物語の最期に吹雪の中でついに目にすることができたルーベンスの『キリスト降架』と対面できました。ただ一言 感動です。

夫婦二人でこの場に立て万感の思いでした。アントワープの街は大都市で、中央駅は世界一きれいな美しい宮殿のような駅でした。また駅前に動物園もあるのです。

アントワープ

聖ハープ教会の『神秘の仔羊』

神の小羊(イエス様の象徴)から流れる血が聖杯に注がれ、天使や聖人、預言者、巡礼者たちがそれを崇拜する様子が描かれていました。大きなガラス越しに間近で鑑賞でき、このような絵画が存在するのかと息をのむような迫力と華やかさがあり圧巻でした。

アントワープの街は中世の歴史的景観と芸術、川と橋の素晴らしい都市でした。

ブルージュ

聖血大聖堂

円筒形のガラス容器にイエス様の聖遺物(聖血)が祀られていることで有名な教会です。十字軍の際にエルサレムから持ち帰ったとされる「イエス様の血が付着した布(聖血)」の入った聖遺物を近くで拝観・祈禱することができます。滞在中に2回も間近で拝観できました。

赤茶色の染みがある白布は、目の前にすると言葉を失うほどの特別な感動です。

日曜日には聖母教会で主日のミサに与かりました。フランス語のミサに入るのは、とても緊張や不安がありましたが、「東京から来てフランス語が分からない」と伝えた際に「OK、OK」と温かく迎えてくださり、後ろの端に遠慮して座っていたら「もっと前へ来て座ってごらん」と前の方へ導いてくださった受付の方の優しさは忘れられません。

特別な恵みに満ちた時間になりました。

神様からの温かい歓迎のしるしのように感じられました。ブルージュは、中世の石造りの街並みや面影が残る本当に美しい街でした。夜見上げた空の星も素敵でした。

さまざまな美しい教会のステンドグラスの光と、ろうそくを灯して穏やかに祈りの時間を重ねられました。

また、ブリュッセルにはベルギー王立美術館があり、ルーベンスやブリューゲルの絵画も多々展示されています。ブリューゲルのバベルの塔やベツレヘムの戸籍調査という雪の地に口バに乗った身重のマリア様と、ヨセフさんが描かれた宗教画もありました。

そしてベルギーは美食の国です。ワッフル・フリッツ(フライドポテト)・ベルギービール・小鍋いっぱいのもう貝・クロケット・カルボナート(ホロホロに煮込まれた牛肉)など食を十分に楽しみました。お土産はベルギーチョコです。

名画の鑑賞だけでなく、カフェやレストランでの美味しい食事とチェリービールに満たされる時間は

私たちへのご褒美でした。現地の方々も私たちがフランス語やオランダ語を話せないことには慣れているので、英語で話しかければ応じてくれます。
伝えようとする気持ちとスマホの便利さがあればとりあえず大丈夫でした。

ベルギーの公共交通機関は駅の案内表示や券売機などがフランス語(オランダ語)と英語でしたが目的地まではgoogle mapを駆使し自分たちで電車やトラムを探して到着することができました。大冒険であり最高の成功体験になりました。

フランス語も分からず、慣れないスマホに悪戦苦闘する私たちを、

- 体を気遣ってエレベーターを勧めてくれた人
- 乗り換え時に迷いそうなホームまでわざわざ一緒についてきて案内してくれた人
- 重いスーツケースをサッと持って手伝ってくれた人
- 「お手伝いしましょうか？」と声をかけてくれたあたたかな一言
- 写真をとってくれた子どもたち

数々の恵みと温かい出会いは、直接その人に返せなくても、今度は私たちがこれからの日常で誰かに優しさを繋いでいけるように返していけたら良いな思いました。

さまざまな不安はありましたが、ゆっくりとひとつずつクリアし、振り返れば、すべての瞬間が恵みと奇跡のような出会いに満ちた素晴らしい巡礼の旅となりました。

巡礼の旅を企画してくださった松村さんに心からの感謝を込めて御礼申し上げます。
そしてこれからもどうぞ宜しくお願いいたします。













